

領域	専門分野Ⅱ 母性看護学	対象学年	2年	開講時期	前期
科目	母性看護学方法論Ⅰ	単位(時間)	1単位(30時間)		
講師名 所属	院内講師 嬉野医療センター 産婦人科医師 石笠 奈美 嬉野医療センター 助産師 坂口 尚子 助産師 馬場 亜希子 嬉野医療センター附属看護学校 専任教員 実務経験：看護師18年				
科目目標： 1. 正常な妊娠の経過及びその対象の生理的特徴を理解する 2. 妊娠経過中の異常や問題を理解し、診断や医学的対応、管理の方法を理解する 3. 妊娠期の身体的・社会的・心理的特徴をふまえた看護を理解できる 4. 妊娠期に必要な看護技術ができる					
授業概要： 周産期における妊娠に焦点を当て学ぶ科目である。正常な妊娠の経過と生理的特徴、胎児の状態について学び、妊娠期における看護やアセスメントについても学ぶ。また、妊娠期の異常(ハイリスク妊婦)を学び、その看護について学ぶ。妊婦の看護の際に必要なとなる看護技術はDVD視聴や模型、モデルを利用して演習を行い、実施できることを目指す。					
授業計画					
回数	講義内容	講義形式	担当講師		
1	1. 母性の発揮を促す援助	講義	坂口 尚子		
2～3	2. 妊娠期における生理的特徴及び診断・治療	講義			
4～5	4. 産科における看護 1) 産科病棟の特徴と管理 2) 周産期の母子相互作用 母乳育児推進：baby friendly hospital (BFH)を含む 3) 周産期における家族への影響と役割変化	講義	石笠 奈美		
6～8	5. 妊娠期における看護 1) 妊娠期における心理・社会的特徴 2) 妊婦と胎児の健康状態のアセスメント 3) 妊婦と家族の心理・社会的アセスメント	講義	坂口 尚子		
9～10	5. 妊娠期における看護 4) 妊婦と胎児の健康診査に対する保健指導	講義 演習	坂口 尚子		
11・12	3. 妊娠の異常(ハイリスク妊娠) 1) 妊娠悪阻 2) 流産 3) 異所性妊娠 4) 高齢出産	講義	院内講師		
13	5. 妊娠期における看護 5) ハイリスク妊婦の看護	講義	坂口 尚子		
14・15	5. 妊娠期における看護 6) 妊娠期に必要な看護技術 ①レオポルド触診法 ②子宮底長・腹囲の測定 ③乳房の手当	講義・演習	馬場 亜希子		
	試験				

テキスト

1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[1] 母性看護学概論 医学書院
2. 系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院
3. 根拠がわかる母性看護技術 メヂカルフレンド社

参考文献

1. ペリネイタルケア メディカ出版
2. 助産雑誌 医学書院

評価方法

筆記試験 (別紙評価計画参照)

領域	専門分野Ⅱ 母性看護学	対象学年	2年	開講時期	前期
科目	母性看護学方法論Ⅱ	単位(時間)	2単位(60時間)		
講師名 所属	院内講師 嬉野医療センター 産婦人科医師 院内講師 嬉野医療センター 小児科医師 太田 薫 嬉野医療センター 助産師 石永 たみ子 嬉野医療センター 助産師 黒川 菜穂子 嬉野医療センター 助産師 蒲原 知愛子 保健師 助産師 馬場 亜希子 嬉野医療センター附属看護学校 専任教員 実務経験：看護師18年				
科目目標： 1. 正常な分娩・産褥の経過及びその対象の生理的特徴を理解する 2. 分娩・産褥経過中の異常や問題を理解し、診断や医学的対応、管理の方法を理解する 3. 分娩・産褥期の身体的・社会的・心理的特徴をふまえた看護を理解できる 4. 胎児の発育および新生児の生理的特徴を理解する 5. 正常な新生児の看護について理解できる 6. 分娩・産褥期・新生児期に必要な看護技術ができる					
授業概要： 分娩・産褥の経過、生理的特徴の正常と異常について学ぶことで、正常に経過するよう管理する為の対応や方法を理解することに活かす。分娩・産褥期は身体的・社会的・心理的に変化が起こる時期となる。その為、それらの特徴について理解し、看護に活かすことが必要となる。また、産褥期においては、褥婦は育児も行わなければならない。胎児の発育、新生児の生理的特徴を理解し、看護について学ぶ。育児に伴う不安に対しては、行政の育児支援の現状を踏まえ、どのような対応が必要であるか、地域の関わりを考える機会を設ける。分娩・産褥期・新生児期に必要な看護技術は、DVD視聴や模型、モデルを利用し、具体的にイメージをしながら学び、実施できることを目指す。					
授業計画					
回数	講義内容	講義形式	担当講師		
1～3	1. 分娩期における生理的特徴及び診断・治療(正常) 産褥期における生理的特徴及び診断・治療(正常)	講義	太田 薫 (助産師)		
4～6	1. 分娩期における生理的特徴及び診断・治療(異常) 産褥期における生理的特徴及び診断・治療(異常)	講義	院内講師 (産婦人科医師)		
7～8	2. 分娩期における看護 1) 産婦の心理・社会的変化	講義	石永 たみ子 (助産師)		
9～12	2. 分娩期における看護 2) 分娩期の看護の実際	講義・演習	石永 たみ子 (助産師)		
13	2. 分娩期における看護 3) ハイリスク・異常分娩時の看護	講義	石永 たみ子 (助産師)		
14～15	2. 分娩期における看護 4) 分娩期に必要な看護技術 ・産痛緩和 ・呼吸法と弛緩法	講義・演習	石永 たみ子 (助産師)		
16～19	3. 産褥期における看護 1) 褥婦の心理・社会的変化 2) 進行性変化・退行性変化を促す褥婦の看護 3) 異常のある褥婦の看護 4) 産褥に必要な看護技術 ・子宮復古 ・乳房マッサージ	講義	黒川 菜穂子 (助産師)		

	・産褥体操		
20～21	4. 新生児期における生理的特徴及びスクリーニング	講義	院内講師 (小児科医師)
22～23	5. 新生児期における看護 1) 出生直後の看護 2) 出生後から退院時までの看護 3) 生後1カ月健康診査に向けた退院時の看護	講義	馬場 亜希子
24～25	5. 新生児期における看護 4) ハイリスク状態の新生児の看護 5) 新生児に必要な看護技術 ・身体計測 ・黄疸の計測 ・沐浴	講義	馬場 亜希子
26	6. 施設退院後の看護 1) 育児不安と育児支援 2) 職場復帰	講義	馬場 亜希子
27～30	7. 事例展開 1) ヘルスプロモーションでの視点の考え方 2) 正常な経過を促進する援助 3) セルフケアを促進する援助 4) 母体外生活適応を促進する援助	講義・演習	馬場 亜希子
	試験		

テキスト

1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[1] 母性看護学概論 医学書院
2. 系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院
3. 根拠がわかる母性看護技術 メヂカルフレンド社

参考文献

1. ペリネイタルケア メディカ出版
2. 助産雑誌 医学書院

評価方法

筆記試験 (別紙評価計画参照)

領域	専門分野Ⅱ 母性看護学	対象学年	3年	開講時期	前期																				
科目	母性看護学実習	単位 (時間)	2単位 90時間																						
講師名 所属	山本 真由美 嬉野医療センター附属看護学校 教育主事																								
<p>実習目的・目標：</p> <p>母性看護の対象は、妊産褥婦とその子ども、将来子どもを産み育てる女性、および過去にその役目を果たした女性だけでなく、女性と生殖や育児のパートナーとしてある男性、共に乳幼児を育てる家族、その家族が生活する地域社会である。</p> <p>母性看護学実習では、それら広い範囲の中でも妊娠・分娩・産褥各期及び新生児の生理的な経過を知り、妊婦・産婦・褥婦・新生児が正常に経過をし、生活できるために必要な看護及び援助について学ぶ。また、健康問題をもち医療的介入を必要とした女性を通して、生涯を通して女性が健康を維持増進する為の援助やその時に必要な看護について学ぶ。</p>																									
<p>授業の概要：</p> <p>妊娠・分娩・産褥期の理解と日常生活におけるセルフケアを促進する援助について学ぶ為、病棟では産婦、褥婦の受け持ちを行い、理解を深めると共に必要な援助を実施する。</p> <p>生命の誕生や母子相互作用の場面、母子への看護を行うことは、命の尊さや母性・父性を考える機会となる。分娩から褥婦を受け持つ中で、健康（正常）に経過させるための援助について学ぶと共に、正常な新生児の生理を知り、新生児看護を学ぶ。また、医療的介入を必要とする女性の看護の場面に関わることで、女性が生涯を通して健康を維持するための看護について考える。</p> <p>産婦人科外来においては、妊婦の健康診査、妊娠継続や分娩・産褥に向けての保健指導を始め母親となる対象への教育的かかわりの実際を学ぶ。また、妊娠・分娩・産褥期における外来と病棟の連携、継続看護の実際、継続看護を可能とする多職種との連携を学ぶ。</p>																									
<p>授業計画</p> <p>1. 実習目標および実習内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実習目標</th> <th>実習内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1) 妊婦の特徴と健康診査・健康教育の必要性について理解できる。</td> <td>(1) 妊婦健康診査の実際 (2) 妊娠期の保健指導、健康教育 (3) 妊婦健康診査で行われる援助 (4) 妊婦の身体的、心理的、社会的特徴および胎児の発育</td> </tr> <tr> <td>2) 正常な分娩経過を理解し、産婦の看護が理解できる。</td> <td>(1) 分娩時の看護の実際 (2) 産婦のセルフケアに応じた援助 (3) 産婦の心理的变化</td> </tr> <tr> <td>3) 褥婦の身体的、心理・社会的変化および正常な産褥経過が理解できる。</td> <td>(1) 進行性変化・退行性変化 (2) 褥婦の身体的、心理・社会的変化の実際</td> </tr> <tr> <td>4) 産褥のセルフケア能力やサポートシステムに応じた援助ができる。</td> <td>(1) 褥婦の身体的変化に伴う必要な援助の実施 (2) 母子相互作用促進や母親役割獲得 (3) 家族機能の再構築 (4) 産褥期の健康診査、保健指導</td> </tr> <tr> <td>5) 新生児の体外生活適応と生理的特徴を理解し、必要な看護が実践できる。</td> <td>(1) 新生児のアセスメント (2) 新生児に必要な看護の実際</td> </tr> <tr> <td>6) 早産児、低出生体重児の生理的特徴と看護の実際が理解できる。</td> <td>(1) 早産児、低出生体重児の生理的特徴 (2) NICUにおける看護の実際</td> </tr> <tr> <td>7) 母性における継続看護と社会資源の活用、法的手続きについて理解できる。</td> <td>(1) 継続看護を行う上で必要な社会資源 (2) 母子保健法の理解</td> </tr> <tr> <td>8) 医療チームの一員として看護師の役割を自覚し、責任ある行動ができる。</td> <td>(1) 継続看護における多職種との連携および自己の役割 (2) 医療チームの一員としての役割</td> </tr> <tr> <td>9) 妊娠・分娩・産褥期の看護を通して自己の母性観または父性観を考えることができる。</td> <td>(1) 父親、母親、家族の子どもに対する思い (2) 自己の母性、父性 (3) 命の尊さ</td> </tr> </tbody> </table>						実習目標	実習内容	1) 妊婦の特徴と健康診査・健康教育の必要性について理解できる。	(1) 妊婦健康診査の実際 (2) 妊娠期の保健指導、健康教育 (3) 妊婦健康診査で行われる援助 (4) 妊婦の身体的、心理的、社会的特徴および胎児の発育	2) 正常な分娩経過を理解し、産婦の看護が理解できる。	(1) 分娩時の看護の実際 (2) 産婦のセルフケアに応じた援助 (3) 産婦の心理的变化	3) 褥婦の身体的、心理・社会的変化および正常な産褥経過が理解できる。	(1) 進行性変化・退行性変化 (2) 褥婦の身体的、心理・社会的変化の実際	4) 産褥のセルフケア能力やサポートシステムに応じた援助ができる。	(1) 褥婦の身体的変化に伴う必要な援助の実施 (2) 母子相互作用促進や母親役割獲得 (3) 家族機能の再構築 (4) 産褥期の健康診査、保健指導	5) 新生児の体外生活適応と生理的特徴を理解し、必要な看護が実践できる。	(1) 新生児のアセスメント (2) 新生児に必要な看護の実際	6) 早産児、低出生体重児の生理的特徴と看護の実際が理解できる。	(1) 早産児、低出生体重児の生理的特徴 (2) NICUにおける看護の実際	7) 母性における継続看護と社会資源の活用、法的手続きについて理解できる。	(1) 継続看護を行う上で必要な社会資源 (2) 母子保健法の理解	8) 医療チームの一員として看護師の役割を自覚し、責任ある行動ができる。	(1) 継続看護における多職種との連携および自己の役割 (2) 医療チームの一員としての役割	9) 妊娠・分娩・産褥期の看護を通して自己の母性観または父性観を考えることができる。	(1) 父親、母親、家族の子どもに対する思い (2) 自己の母性、父性 (3) 命の尊さ
実習目標	実習内容																								
1) 妊婦の特徴と健康診査・健康教育の必要性について理解できる。	(1) 妊婦健康診査の実際 (2) 妊娠期の保健指導、健康教育 (3) 妊婦健康診査で行われる援助 (4) 妊婦の身体的、心理的、社会的特徴および胎児の発育																								
2) 正常な分娩経過を理解し、産婦の看護が理解できる。	(1) 分娩時の看護の実際 (2) 産婦のセルフケアに応じた援助 (3) 産婦の心理的变化																								
3) 褥婦の身体的、心理・社会的変化および正常な産褥経過が理解できる。	(1) 進行性変化・退行性変化 (2) 褥婦の身体的、心理・社会的変化の実際																								
4) 産褥のセルフケア能力やサポートシステムに応じた援助ができる。	(1) 褥婦の身体的変化に伴う必要な援助の実施 (2) 母子相互作用促進や母親役割獲得 (3) 家族機能の再構築 (4) 産褥期の健康診査、保健指導																								
5) 新生児の体外生活適応と生理的特徴を理解し、必要な看護が実践できる。	(1) 新生児のアセスメント (2) 新生児に必要な看護の実際																								
6) 早産児、低出生体重児の生理的特徴と看護の実際が理解できる。	(1) 早産児、低出生体重児の生理的特徴 (2) NICUにおける看護の実際																								
7) 母性における継続看護と社会資源の活用、法的手続きについて理解できる。	(1) 継続看護を行う上で必要な社会資源 (2) 母子保健法の理解																								
8) 医療チームの一員として看護師の役割を自覚し、責任ある行動ができる。	(1) 継続看護における多職種との連携および自己の役割 (2) 医療チームの一員としての役割																								
9) 妊娠・分娩・産褥期の看護を通して自己の母性観または父性観を考えることができる。	(1) 父親、母親、家族の子どもに対する思い (2) 自己の母性、父性 (3) 命の尊さ																								

詳細は、実習要項参照

2. 実習施設

独立行政法人国立病院機構 嬉野医療センター
5 西病棟（レディース病棟） 女性外来

履修条件

学則細則第3章第12条

専門分野の授業科目について単位履修ができていない者は学習の順序性から当該科目の実習を履修できないことがある。（詳細は履修規程や履修要項を参照）

- ・専門分野の単位履修ができていない学科科目がある場合、関係する実習の履修ができないことがある。
- ・基礎看護学看護過程実習において単位認定されなければ、専門分野Ⅱの各領域実習を履修できない。

参考文献

1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[1] 母性看護学概論 医学書院
2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院
3. 根拠がわかる母性看護技術 メヂカルフレンド社
4. ウェルネスからみた母性看護過程 医学書院
5. ペリネイタルケア メディカ出版
6. 助産雑誌 医学書院

評価方法

実習出席状況、実習内容、評価基準に基づき評価する。（実習要項・実習要領・評価基準参照）